

小学部第4学年 音楽（Aグループ）学習支援案

1. 単元名 「えんそう会をしよう」
2. 日時と場所 平成〇〇年〇〇月〇日（〇） 〇〇：〇〇～〇〇：〇〇 音楽室
3. 本時における個人目標

Aさん	Bさん	Cさん	Dさん
○楽器の音や周りの動きを見て、自分から動こうとすることができる。 ○ペアの友だちの手をたたくことができる。 ○教師の動きを模倣しながら、リズムにあわせて手をたたこうとすることができる。 ○楽器を自分から選んで取り、鳴らすことができる。	○教師からの声かけや、近くにいるSTの動きを模倣することで動くことができる。 ○友だちの手に注目し、ねらってたたくことができる。 ○教師からの声かけで、動きを模倣することができる。 ○楽器を鳴らし続けることができる。	○教師の促しや一緒に体を動かすことで、楽器に合わせて動くことができる。 ○友だちが出した手を、自分からたたくことができる。 ○教師の働きかけを受け入れ、一緒に手をたたくことができる。 ○自分から楽器を取り、鳴らし続けることができる。	○教師からの声かけを受けながら、部分的に一人で動いたりすることができる。 ○かわりを受け入れたり、手をたたくことができる。 ○教師の動きを模倣することができる。 ○教師の動きを見て、カゴから楽器を選んで、手に取って鳴らすことができる。

4. 本時の流れ「えんそう会をしよう」 ※支援について (環：環境面への支援 理：理解面への支援 技：技能面への支援 意：意欲面への支援)

Aさん	Bさん	Cさん	Dさん
1. 始めの挨拶をし、本時の学習を知る。			
		環 パネルシアターの時に、見えやすい場所に移動しやすいように端に座る。	環 落ち着いて活動できるように、入り口近くに座り、机を用意する。
2. 楽器の音に合わせてリトミックをする。 環 適度な人数で一人ひとり集中して活動できるように、3回に分かれて行う。			
意 自分から、音を聞いて動き出すのを見守る。	理・意 動きが止まった時には、STが横で動きを見せたり声かけをしたりする。	理・技 音の変化に合わせて動き出せるように、動くきっかけを与えたり動きを体感させたりする。	理 最後に名前を呼び、すぐ活動に入れるようにする。 理・意 手をつなぎ一緒に動き、慣れてきた頃に一人で動けるように少し離れて声かけをする。
3. 「ジングルベル」の曲に合わせて2人組でダンスをする。			
理・意 始めに教師2人が見本を示し、振り付けを思い出せるようにし、やってみたいという興味を持てるようにする。 理・意 ペアの友だちが分かり、スムーズにダンスを始めることができるように、隣同士で座るようにする。 意 サンタの帽子や衣装をつけて、楽しい雰囲気の中でダンスができるようにする。 理 必要に応じてSTが声かけを行う。	理 ペアの友だちを意識して手をたたくことができるように、ペアの児童から働きかけるように、声のかけ方などをアドバイスする。	理・技 ペアの児童が手を添え、手をたたくように促す。	環・意 前に出ることが難しい場合は、誘いに来たペアの友だちとその場で踊る。 理・技 目の前でバンザイをして見せたり、たたく部分を指さしたりする。
4. 「リトルマーメイド」のパネルシアターを見る。			
意 キャラクターや自分たちが演奏するパネルを見て、楽器演奏への関心や意欲を持てるようにする。		環・意 パネルの前に移動し、注目できるようにする。	環・意 パネルシアターが見えにくく、注目にくい席なので、自分で操作できるパネルを用意する。
5. 席に移動する。			
理 一人ずつ名前を呼び、いつも座っている席に自分で移動することができるようにする。			
環 Aグループ・Cグループ、お互いの演奏をしっかりと意識しながら、活動できるように向き合って座る。			

Aさん	Bさん	Cさん	Dさん
6. 「かえるのうた」に合わせて手遊びをする。			
<p>意曲の雰囲気を楽しみながら手遊びができるように、教師がかえるの手袋をし、目の前で見せたり関わり遊びをしたりする。</p> <p>意目の前でMTが見本をしてみせることで模倣しながら手遊びをすることができるようにする。</p> <p>理・技特にリズムを意識できるように部分的に手添えをして手をたたく。</p>		<p>理MTと向かい合わせになってリズムに合わせて手を合わせ、リズムを感じることができるようにする。</p>	<p>意目の前でSTが見本をしてみせることで模倣しながら手遊びをすることができるようにする。</p>
7. 「リトルマーメイド」の演奏 Cグループの演奏を見る。			
理Cグループの演奏が始まることを伝え「手はおひざ」の声かけをすることで、聞く姿勢を作れるようにする。			
8. Aグループだけで全体を通して演奏する。			
<p>理MTが待つ姿勢をしてみせることで、演奏部分まで鳴らさずに待つことができるようにする。</p> <p>理必要に応じて「手はおひざ」の声かけをする。</p> <p>理MTが曲のタイミングに合わせて楽器を取ったり、鳴らし方を見せたりすることで、曲に合った演奏の仕方を理解して鳴らせるようにする。</p> <p>理・技部分的にMTが遅れて鳴らし始めることで、曲を聞いて自分で考えて鳴らそうとすることができるようにする。</p> <p>環鳴らし終わった楽器を片付けるかごを一人ずつ用意する。</p> <p>理・技目の前で『鈴をたたく一鈴を上上げる』の動きを見せ、模倣しながら拍打ちの練習ができるようにする。</p> <p>理自分で考えて演奏することができるように必要以上の声かけはしないようにする。</p>	<p>理・意気持ちを持続して鳴らし続けることができるように、MTの動きに注目させたり、声かけを行う。</p>	<p>意曲が流れている間、楽器を鳴らし続けることができるようにSTが指さしや声かけを行い、意識を継続させることができるようにする。</p> <p>環・理楽器を鳴らす順番ごとに手前から置いておく。</p>	<p>理・技STが目の前で「鈴をたたく一鈴を上上げる」の動きを見せ、模倣しながら拍打ちの練習ができるようにする。</p> <p>理・意楽器を取り出すことに意識が向いていない時はSTが声かけを行う。</p> <p>意太鼓のみ演奏直前に机に置くようにする。</p>
9. Cグループと合奏をする。			
理Cグループの演奏を見て待つことで、楽器を鳴らさずに待つことをより意識することができるようにする。			
10. 終わりのあいさつをする。			
理本時を振り返り、できたことやがんばったことを賞賛し、次時への期待感をもたせるようにする。			

5. 評価

評価項目	できた○ ○の中に、A…自分で、B…ことばかけで、C…指さし・ジェスチャーで、D…見本・実物を見せる、E…教師と一緒に、できない×			
	Aさん	Bさん	Cさん	Dさん
○楽器の音や周りの動きを見て、自分から動くことができる。	○声かけや教師の動きを見て動くことができる。	○教師の促しや一緒に体を動かすことで、楽器に合わせて動くことができる。	○教師からの声かけを受けながら、部分的に一人で動いたりすることができる。	
○友だちの手をたたくことができる。	○友だちの手に注目してねらってたたくことができる。	○友だちが出した手を自分からたたくことができる。	○関わりを受け入れたり、手をたたくことができる。	
○教師の動きを模倣しながら、リズムにあわせて手をたたくことができる。	○教師からの声かけで動きを模倣することができる。	○教師の働きかけを受け入れ、一緒に手をたたくことができる。	○教師の動きを模倣することができる。	
○楽器を自分から選んで取り、鳴らすことができる。	○楽器を鳴らし続けることができる。	○自分から楽器を手に取り、鳴らし続けることができる。	○教師の動きを見てカゴから楽器を選んで、手に取って鳴らすことができる。	

教材・教具

<p>Dさん個別パネルシアター</p> 	<p>「かえるのうた」手遊び手袋</p> 	<p>Aさん・Bさん 楽器配置</p> 
<p>以前はパネルが見えづらく、活動の意欲が途切れていましたが、自分で、パネルを貼るようにすることで学習に気持ちを向けて活動することができています。</p>	<p>教師が手袋をはめることで、より注目することができています。「クワッ」の部分で体をくすぐられるなど、楽しみながら意欲的に活動することができています。</p>	<p>1学期は、鳴らす順番に楽器を置いていましたが、練習を繰り返す中で、順番を覚えて自分で手に取ることができるようになってきました。そこで楽器をまとめて置き、自分で選ぶようにステップアップしました。</p>
<p>Cさん 楽器配置</p>	<p>Dさん 楽器配置</p>	<p>Dさん 太鼓</p>
		
<p>1学期は、演奏部分になると教師が楽器を渡していましたが、2学期は、自分で手にとって鳴らす練習をしています。まだ自分の好きな楽器を取ることが多いですが、指さして指定されたものを取ることができるようになってきました。</p>	<p>3種類の楽器の中で一番太鼓が好きで、始めから机上に置いておくと太鼓が気になって活動に落ち着いて取り組むことが難しかったので、演奏の直前に渡すようにしました。今では、他の楽器も演奏しようとするが増えてきています。</p> <p>また、Dさんは個別に壁際に机を用意し、落ち着いて学習に参加できるようにしています。声や音が気になって学習に参加することが難しい場合は、廊下へ移動し、少し離れた所から参加するようにしています。</p>	

配置図

